令和７年度

事　業　報　告　書



社会福祉法人　のぞみ会

介護老人福祉施設　のぞみの杜

居宅介護支援事業所　のぞみの杜

短期入所生活介護事業所　のぞみの杜

個室ユニット型短期入所生活介護事業所　のぞみの杜

通所介護事業所　のぞみの杜ふれ愛

元気の湧　のぞみの杜

認知症対応型共同生活介護事業所　のぞみの杜

高齢者生活福祉センター　のぞみの杜

もりのほいくえん　のぞみの杜

長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷１５７８

TEL０９５－８８７－３３３３／FAX０９５－８８７－３５９９

http://www.nozominomori.or.jp

令和７年度事業報告

はじめに

本年度は、科学的介護の学びを実践し、利用者・入居者の変化を、ご本人およびご家族と共に成果として実感し、喜びを分かち合うことができた一年であった。科学的介護の取組成果は口コミ等を通じて広がり、県主催の研修への参加や、町内ケアマネジャーへの講義など、外部への発信の機会にもつながった。また、全国各地から見学の依頼を受けるなど、着実に成果が形となり、意義深い一年となった。

加えて、各事業所においては、目標を具体的な数値目標として設定したことにより、職員一人ひとりが目標数値を意識しながら業務に取り組むことができた。これにより、数値的根拠に基づく建設的な会議運営が可能となり、課題の共有と改善策の検討がより実効性のあるものとなった。

さらに、新たに「のぞみ会公式ルール」を施行し、これまで大切にしてきた法人風土の明文化を図った。採用および人材定着の面では、１on１フィードバックミーティングが定着し、職員一人ひとりと向き合う時間を確保することで、組織全体のチーム力向上に寄与した。

また、外国人雇用については、法人の理念および運営方針に適した支援機関を選定し、採用に向けた面接を実施するなど、令和８年度の採用に向けて着実に準備を進めることができた。

今後も、のぞみ会が追い求める「のぞみ会でしかできない質の高い介護」をさらに深化させ、職員にとってやりがいのある職場づくりを推進していくとともに、利用者・入居者および地域の皆様から信頼され、求められる法人であり続けるよう努めていく所存である。

設置主体　　社会福祉法人　のぞみ会　　理事長　池　原　　泉

所　在　地

長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷1578番地

Tel　095-887-3333　　Fax　095-887-3599

http://www.nozominomori.or.jp

社会福祉法人　のぞみ会　沿革

平成　６年　２月２５日	社会福祉法人　のぞみ会　法人認可
平成　６年１２月１４日	特別養護老人ホーム　のぞみの杜　開設認可
平成　６年１２月１５日	特別養護老人ホーム　のぞみの杜　事業開始 （併設事業　短期入所事業）
平成　６年１２月２１日	デイサービスセンターのぞみの杜　事業開始
平成１１年１０月　１日	居宅介護支援事業所　のぞみの杜　開設
平成１２年　４月　１日	訪問介護事業所　のぞみの杜　開設
平成１２年　６月１０日	通所介護事業所　のぞみの杜　定員増 定員３０名　⇒　定員４０名
平成１３年　９月１４日	通所介護事業所　のぞみの杜　拡張開始 定員４０名　⇒　定員６０名
平成１３年　９月１５日	ヘルパーステイション　のぞみの杜　開設
平成１３年１２月　１日	グループホーム　のぞみの杜　開設
平成１４年　２月２２日	高齢者生活支援センター　のぞみの杜　開設
平成１８年　４月　１日	介護予防事業（通所・訪問・短期・居宅）
平成１８年　９月１３日	個室ユニット型２０床改修工事着工
平成１９年　３月２０日	のぞみの杜改修工事竣工
平成１９年　４月　１日	個室ユニット型２０床　開設 短期入所生活介護事業所　増床 定員２０床　⇒　定員３０床
平成２１年　３月３１日	訪問介護事業所　休止
平成２１年　８月　１日	通所介護事業所　新館へ移動
平成２１年　９月２４日	デイサービスセンター　財産処分承認
平成２１年１２月　１日	デイサービスセンターのぞみの杜スヨさん家開設
平成２２年　８月　１日	短期入所生活介護事業所　１０床増　定員４０床
平成２３年　３月３１日	訪問介護事業所　廃止
平成２４年　５月　１日	給食委託事業廃止　直営にて提供
平成２４年１２月　１日	スマイル・キッチンオープン

平成２５年	２月	１日　長崎県福祉サービス第三者評価受審
平成２５年	３月	１日　ユニットリーダー研修実地研修施設 認定
平成２５年	７月１６日	個室ユニット型改修工事関連　着工
平成２６年	１月３１日	個室ユニット型関連改修工事　竣工
平成２６年	２月	１日　介護老人福祉施設完全個室ユニット型５０床開設
平成２６年	２月	１日　短期入所生活介護事業所　定員４０人⇒２８人
平成２６年	４月	１日　個室ユニット型短期入所生活介護事業所　定員１０人開設
	〃	短期入所生活介護事業所　定員２８人⇒１８人
平成２８年	３月	１日　ユニットリーダー研修実地研修施設 再認定
平成２８年１１月		１日　元気の湧　のぞみの杜　定員３０人開設
平成２８年１１月		１日　通所介護事業所　定員８０人⇒７０人
平成２９年	４月	１日　生活困窮者レスキュー事業開設
平成２９年	９月	１日　元気の湧　のぞみの杜　定員３０人⇒４０人
平成３０年	４月	１日　もりのほいくえん　企業主導型保育園委託事業開園
		（委託先：株式会社メディフェア）
平成３０年	８月	１日　元気の湧　のぞみの杜　定員４０人⇒５０人
令和	１年	７月　１日　元気の湧　のぞみの杜　定員５０人⇒６０人
令和	２年	４月　１日　もりのほいくえん　企業主体型保育園自事業として開園
令和	３年	１月２２日　短期入所生活介護事業所　定員１８人⇒１３人
令和	３年	４月　１日　元気の湧　のぞみの杜　定員６０人⇒７０人
令和	４年	１月２３日　社会福祉法人のぞみ会　研修施設　設置
令和	４年１１月	１日　通所介護事業所のぞみの杜 ふれ愛
		定員７０人⇒６０人
令和	６年	４月　１日　元気の湧　のぞみの杜　定員７０人⇒６０人
令和	６年	８月　１日　通所介護事業所のぞみの杜 ふれ愛
		定員６０人⇒６５人
令和	６年	６月３０日　デイサービスセンターのぞみの杜スヨさん家廃止
令和	７年	１月３１日　短期入所生活介護事業所　休止
令和	８年	３月３１日　短期入所生活介護事業所　廃止
		介護予防短期入所生活介護事業所　休止

敷地面積

建物延面積		６，４３７．１９㎡
敷地面積	基本財産	１５，１５３．７７㎡
	運用財産	９，０４３．６８㎡（2,651.2㎡増）

事業概要（令和８年３月末現在）

介護老人福祉施設　のぞみの杜	（定員　５０名）
のぞみの杜　短期入所生活介護事業所	（定員　１３名）
のぞみの杜個室ユニット型短期入所生活介護事業所	（定員　１０名）
通所介護事業所　のぞみの杜　ふれ愛	（定員　６５名）
元　気　の　湧　のぞみの杜	（定員　６０名）
グループホーム　のぞみの杜	（定員　９名）
高齢者生活福祉センター　のぞみの杜	（定員　１２名）
居宅介護支援事業所　のぞみの杜	受入枠　２２０件
介護予防事業	４０件
生活困窮者レスキュー事業	実績　８件

法人役員　　理　事　６名　　監　事　２名　　評議員　７名
第三者委員　２名　　評議員選任解任委員　３名　入居判定委員　２名

令和７年度　主な行事、事業等

日　付	行　事　・　事　業　等
４月　１日	のぞみ会　入社式　、全体会議
４月　２日	人事考課研修
４月　７日	特養入居者　家族と誕生日会（お祝い膳）
４月１８日	自立支援マイスター試験
４月２４日	ひばり学級　つながろう会
４月２４日	保育園　内科健診（成田医院）
５月　９日	長寿社会課より施設見学（ICT 関連）４名
５月１２日、６月２４日	ネスレ　さきえ様　スマイルキッチン見学
５月２０日	白寿荘　スマイルキッチン見学
５月２２日	保育園　消火・避難訓練
５月３０日	のぞみ会　法人監事監査
６月　４日	特養　新人職員対象勉強会（排泄）

６月　７日	特養　新人職員対象勉強会（科学的介護）
６月１３日	保育園　歯科検診（ひでふみ歯科）
６月１７日	消防避難訓練実施
６月２２日	福祉のお仕事フェア（長崎県社会福祉協議会）
６月２８日	のぞみの杜　見学会（リクルート）
７月２８日	NTEC 救急救命来所（高齢者福祉施設職員との合同訓練研修）
７月２日～４日	長与第二中学校　職場体験
７月３日～４日	明誠高等学校　インターンシップ
７月　４日	もりのほいくえん　七夕交流会（ひまわり広場）
７月２日.３日.１０日	県立盲学校より　実習生１名
７月１０日	長崎純心大学　介護技術指導講師として　特養スタッフ１名派遣
８月　１日	介護労働安定センター　事業主講和（施設長　講師依頼受け）
８月　２日	よもぎ会来所（ひまわり広場にて歌・踊り等）
８月　５日	科学的介護　エキスパート試験
８月１４日	特養入居者　家族と誕生日会（お祝い膳）
８月２１日	ロジ職場見学会（オンライン）
９月　４日	保育園児童育成協会指導監査
９月　９日	もりのほいくえん　敬老交流会
９月１０日	老人福祉施設指導監査（法人）
９月１１日	日本赤十字　血液センター　１１名献血
９月１６日	介護労働安定センター　ミニ面談会
９月２４日	長崎県指導監査
９月２４日	長崎県労働基準監督署
９月27日	グループホーム運営推進会議
９月３０日	長崎県令和７年度集団指導（リモート）
１０月２日、１０月１７日	のぞみ会職員健康診断（長崎県健康事業団）
１０月　３日	令和８年度　大卒求人選考日（１名）
１０月　６日	のぞみの杜杯　ゲートボール大会
１０月２１日	ほいくえん監査（県こども未来課）

１１月　１日	純心大学社会福祉士相談援助実習（１名）
１１月　８日	のぞみの杜　秋祭り
１１月１５日	長与フェス参加
１１月２０日	ハローワーク面談会参加
１１月２９日	グループホーム運営推進会議
１２月　９日	長与NT　岳洋会様　１６名
１２月１９日	のぞみ会　忘年会
１２月２３日	クリスマス交流会
１月　９日	ふくしの修学旅行　５法人来所
１月２１日	消防避難訓練実施（夜間想定）
１月２２日、２３日	ブレインスターによる育児・介護新制度説明会
１月２３日	グループホーム外部評価実地調査（福祉総合評価機構）
１月２４日	グループホーム運営推進会議
１月２８日	最中屋　施設見学来所
１月２９日	長崎県介護労働安定センター様より表彰授与
１月２９日	入所判定会議
２月　４日	のぞみ会夜勤者職員健康診断（長崎県健康事業団）
２月１２日～１３日	岐阜県　新生会　サンビレッジフーズ　施設見学来所
２月　９日	長崎歌謡バンド　コンサート
２月１４日	出島メッセ　ながさき合同企業面談会へ参加
２月１９日	のぞみ会　外国人雇用　面接（モビリティキャリア様来所）
２月１９日	ロジ職場見学会（オンライン）
２月２０日	特養プロジェクト　ほいくえん園児との交流会
３月　３日	長崎県自立支援介護事例発表：出島メッセ
３月１４日	特養　家族向けの事例発表
３月１９日	長与町民生児童委員　１６名来所
３月２８日	ほいくえん　お別れ会

介護実習受入

４月１５日～４月１６日	ロジ職場体験（ふれ愛）　２名
４月１７日～４月２１日	ロジ職場体験（特養）　３名
６月９日～６月２４日	玉成高校実習（特養）　２名
６月１６日～６月１９日	玉成高校実習（GH）２名
７月２・３・１０日	県立盲学校実習　１名
７月２日～７月４日	長与第二中学校　４名
７月２日～７月４日	明誠高校インターンシップ　１名
７月１０日～７月２４日	玉成高校実習（特養）　２名
７月１４日～７月１７日	玉成高校実習（GH）２名
７月２２日～７月２４日	ユニットリーダー研修　２名
８月１４日～８月２２日	純心大学実習（ふれ愛）６名
８月１８日～８月２７日	純心大学社会福祉士相談援助実習（特養）１名
８月１８日～８月２２日	純心大学社会福祉実習（居宅）　１名
８月１８日～９月１７日	鎮西大学ソーシャルワーク実習Ⅱ（居宅）　２名
８月２７日～８月２９日	長崎大学教育学部付属中
９月１日～９月１７日	純心大学実習（特養）　１名
９月３日～９月５日	ユニットリーダー研修　２名
１０月１５日～１０月２１日	ロジ職場体験（特養）　２名
	ロジ職場体験（ふれ愛）　２名
１１月１日～１１月２９日	純心大学介護実習Ⅰ　１名（ふれ愛）
１２月１５日～１２月１９日	玉成高校実習（ふれ愛）　２名
２月１６日～３月４日	純心大学実習（特養）　２名
３月４日	鎮西大学ソーシャルワーク実習Ⅱ（居宅）　１名

～理事会　開催状況～

役員会の状況　　理事会　6　回　　評議員会　1　回

会議開催日	議　　案　　等
第１回理事会 令和７年６月３日	1. 令和６年度　社会福祉法人のぞみ会事業報告について
	2. 令和６年度　社会福祉法人のぞみ会決算報告書（案）について 監事監査報告、社会福祉充実残額の報告について
	3. 期間満了に伴う理事の推薦について
	4. 評議員候補者の推薦(案)の承認について
	5. 評議員会選任・解任委員会の招集について
	6. 評議員会の招集について
	7. 経理規程の変更
	その他　検討事項
第２回理事会 令和７年６月１９日	1. 理事長の選任について
	2. 業務執行理事の選任について
	3. 評議員・解任選任委員の選任について
	4. 特浴機の購入について
	その他　検討事項
第３回理事会 令和７年９月１日	1. 育児介護休業規程の一部変更(案)について
第４回理事会 令和７年１０月９日	1. 支援ハウス空調設備の改修（案）について
	2. スマイルキッチンホシザキブラストチラー&フリーザーの購入（案）について
	3. 就業規則の法改定、現状と適合していくためのメンテナンス（案）について
	その他、検討事案
第５回理事会 令和８年１月１９日	1. 外国人労働者の雇用について
	その他　検討事項
第６回理事会 令和８年３月２６日	1. 社会福祉法人のぞみ会令和７年度第一次補正予算(案)の承認について
	2. 社会福祉法人のぞみ会令和８年度計画（案）の承認について
	3.　社会福祉法人のぞみ会令和８年度資金収支予算書（案）の承認について
	4. 評議員会の招集について
	その他　検討事項

～評議員会 開催状況～

会議開催日	議　　案　　等
第１回評議員会 令和７年６月１９日	1. 令和６年度社会福祉法人のぞみ会事業・決算報告書（案）について 監事監査報告について 社会福祉充実残額の報告について
	2. 任期満了に伴う理事・監事の選任(案)について
	3. 第三者委員及び入所判定委員の選任(案)について、 その他検討事項

～各種会議開催状況～

会議名	項目	内容等
管理会議	開催日	毎月開催
マネジメントレビュー	開催日	９月、２月（年２回）
	参加者	施設長、部長、次長、総務長、各事業所の長
	内容	品質及び科学的介護の効果確認等
事業所会議	開催日	毎月開催（特養、短期、通所、元気の湧、支援ハウス、グループホーム、居宅、スマイルキッチン）
	参加者	各事業所スタッフ
	内容	管理会議報告、伝達事項、検討協議事項、ケアカンファレンス
運営推進会議	開催日	グループホーム（２ヶ月に１回）
	参加者	運営推進委員（地域）、長与町地域包括支援センター、長与町介護保険課、介護支援専門員、事業所長、スタッフ等
	内容	事業所の概要・報告、取り組み、地域との連携等
入居判定会議	開催日	随時（特養、グループホーム）
	内容	入居判定
ユニット会議	開催日	毎月１回開催
（各ユニット・事業所）	参加者	各ユニット所属職員
	内容	リスクマネジメント検討、拡大会議報告、伝達事項、検討協議事項、業務改善提案、ケアカンファ等
ケアカンファ会議	開催日	随時
	参加者	家族、相談員、ケアマネジャー、担当職員、看護師等
	内容	ケアカンファレンス、ケアプラン検討等

～各種部会・委員会開催状況～

安全管理部会	参加者	施設長、各事業所役付職員（毎月開催）
	目的	予防の観点からの予知予測を徹底し、事故発生件数の減少を図る事の周知
衛生管理部会	参加者	施設長、各事業所役付職員（毎月開催）
	目的	衛生管理を徹底し、感染症や食中毒の予防や蔓延防止策を図る 衛生にかかる意識を高め感染を防止する 衛生管理研修の企画、実施
	研修	令和７年９月３０日、令和８年２月２５日
苦情対策部会	参加者	施設長、各事業所役付職員（毎月開催）
	目的	苦情に真摯に向き合い、より良いサービスの提供を図る 顧客満足を顧客感動に変え得るサービスを追求し、苦情ゼロへと繋げる 苦情になり得るヒヤリハットから予知予測される苦情のマネジメント強化を図る
研修部会	参加者	施設長、各事業所役付職員（毎月開催）
	目的	専門性として更なるスキルアップとなる研修を企画し、高品質のサービスへと繋げる
身体拘束廃止・ 虐待防止委員会	参加者	施設長、身体拘束廃止委員会委員
	目的	入居者及び利用者の尊厳を保証し、その尊厳に向き合う職員を守る 虐待を起こさせない組織運営強化
	研修	令和７年９月２９日、令和８年２月２０日
入所判定委員会	参加者	施設長、入所判定委員
	目的	特別養護老人ホーム、グループホームの適切な入居判定を行いスムーズな入居を図る
品質向上委員会	参加者	施設長、各事業所長（毎月開催）
	目的	品質マネジメントの向上的展開により、更なる品質の向上・顧客満足を追求する
労働安全衛生委員会	参加者	施設長、各事業所長（毎月開催）
	目的	職場の安全と衛生、職員の健康に配慮し、快適な職場環境を推進する
安全管理委員会	参加者	施設長、各事業所長（毎月開催）
	目的	予防の観点からの予知予測を徹底し、事故発生件数の減少を図る
	研修	令和７年１１月２８日、令和８年３月１１日
BCP 対策委員会 【災害班・衛生班】	参加者	施設長、BCP 対策委員会委員
	目的	災害や感染症発生時における早期事業の再開のための BCP 運用と訓練の実施
	研修	令和７年１１月３０日、令和７年１２月２５日

～施設外研修～

研　　修　　名	開催月	研修先	参加職種及び人員
～介護老人福祉施設～			
ユニットリーダー講師等研修会	７月	横浜	相談員１名　介護職１名
介護生産性リーダー養成研修１日目	１０月	リモート	相談員１名　介護職１名
介護生産性リーダー養成研修２日目	１１月	リモート	相談員１名　介護職１名
介護生産性リーダー養成研修３日目	１２月	リモート	相談員１名　介護職１名
長崎県自立支援介護事例発表	３月		
～通所介護事業所～			
CM 事例発表	１１月		
～元気の湧～			
自然体でつくる強くて優しいチーム	１０月		１名
～ＧＨ～			
～スマイルキッチン～			
衛生責任者研修	１０月		栄養士１名
西彼保健所　衛生研修	２月		キッチンスタッフ
お口のリハビリテーション	３月		
～総務～			
SNS オンライン講座	７月	オンライン	事務　２名
育児・介護休業法改正“選ばれる職場”に	７月	福岡	事務　２名
～保育園～			
幼児教育の理解・発展推進事業	６月	福岡	園長１名
幼児期の教育・保育力向上研修会	８月	長崎市	保育士１名
保育 DX セミナー	９月		園長１名
長崎県子育て支援員研修	9・10 月		支援員１名

施設長等研修	１１月	福岡	園長１名
～居宅介護事業所～			
BCP 研修	８月	県社協	
地区協研修会・特定事業所事例検討会	９月	長与町	CM　６名
CM 研修	１１月		
～全体～			
PHJ 齋藤貴也氏　自立支援介護研修	４月～	のぞみの杜	介護職員　毎月
PHJ 代表　谷本正徳氏　自立支援マネジメント研修	４月～	のぞみの杜	リーダー以上　毎月
排便とファイバーについて	５月	のぞみの杜	
NTEC 救急救命	７月	のぞみの杜	
育児・介護研修	１０月	のぞみの杜	
令和７年度福祉関係高校生向け介護テクノロジー体験会	１月	長崎	
生成 AI 研修	３月～	のぞみの杜	

～助成金研修～

研　　修　　名	開催月	研修先	備考
第 22 回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術学会	５月	オンライン	
第 14 回日本認知症予防学会学術集会	９月	東京	
生活困窮支援に関するｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研修	11 月	オンライン	

～資格取得応援助成金～

研修名又は資格の名称	開催月	所　属
介護支援専門員専門研修Ⅰ	７・８月	居宅介護支援事業所 グループホーム
介護支援専門員専門研修Ⅱ	１１・１２月	グループホーム

～リーダー研修実地研修受入事業～

ユニットリーダー研修	受入人数 開催期	受入都道府県	備考
７月２２日～７月２４日	２名	長崎県	
９月３日～９月５日	２名	長崎県	

～施設内研修～

研　修　名	開催月	参加職種
新人研修	５・６・１０月	新入職職員
消防避難訓練	６月	全事業所職員
消防避難訓練（夜間想定）	１月	全事業所職員

介護老人福祉施設

総　括

令和７年度は、収益面・科学的介護の両面において、全体として堅実な成果を上げることができた一年であった。

科学的介護取り組みにおいては、「夢プロジェクト～今年やりたいこと応援活動～」を中心に実施し、大きな成果を出すことができた。特に歩行訓練に関し、資源の設備を重要視し、環境を整え取り組んだことやこれまでの機器類のバージョンアップ、また保全に努めること等、環境を整えて頂いたことで大きな成果を出すことができた。

人材育成に関して、1 on1 フィードバックミーティングを定期的に実施することで、それぞれの成長過程を把握することができ人材育成に繋げられた。

事業所計画においての報告と反省

【収益目標】

令和７年度の収益目標は、計画値 99.5%に対し、実績 99.0%と目標まであと一歩の結果となった。
入院者数および入退居者数の増加が影響し、想定を上回る日数の空床期間が発生したことが主な要因である。

今年度は、入院者 17 名（延べ 166 日）、入退居者 13 名となった。退居者の内訳として、看取り７名、看取りなし１名、医療選択による退居２名、入院先での永眠２名があった。

一方で、短期入所（もみじ）からの入居につなげる取り組みが功を奏し、ほぼ中１日での入居対応が可能となるなど、迅速な受け入れ体制の構築が進んだ。
ただし、医療機関や他機関からの新規受け入れについては、調整に 5～6 日を要するケースが多く、今後の改善課題として引き続き検討が必要である。

【科学的介護目標】

科学的介護の推進においては、令和７年度も「夢プロジェクト～今年やりたいこと応援活動～」を中心に取り組んだ。
入居者一人ひとりの「やりたいこと」を実現することを目的に、月ごとにテーマを設定し、買い物企画、居酒屋企画、イルミネーション見学、外食企画など、多様な活動を実施した。
各企画にあたっては、カテゴリー分けを行い、個別カンファレンスを多職種で実施するこ

とで、日々の訓練や支援内容を具体化した。
その結果、目標達成率80%に対し、実績98.6%と高い成果を上げることができた。
また、本活動にはご家族の積極的なご理解とご協力をいただき、18家族の参加を得ることができた。
さらに、3月には本プロジェクトの成果を共有するため、事例発表会（報告会）を開催し、各事例の取り組み内容や成果を職員間で共有した。これにより、科学的介護の実践知を法人全体で蓄積・発展させる機会となった。
自立支援介護の主な指標については以下のとおり。

- 自立歩行率：目標20%に対し、実績48%と大幅に向上。
- 平均水分量：1500 ccに対し、実績1380 ccと、あと一歩の結果となった。

これらの取り組みを通じて、入居者の主体性を尊重しながら、科学的根拠に基づく介護実践を推進することができた。今後も、データに基づく分析と多職種連携を強化し、より質の高い自立支援介護の実現を目指していく。

個室ユニット型短期入所生活介護事業所

総　括

令和７年度は、短期個室ユニットとして地域および特養入居待機者への支援を継続した。
稼働率は目標９５%に対し９０．２%と未達であったが、単発利用者のリピート率は高く、一定の成果を得た。また新規相談も多く５２名実績があった。
科学的介護の取組では、動画によるADL変化の可視化や「やりたいこと応援活動」の実施により、自立支援と生活意欲の向上が図られた。
また、個別機能訓練の成果として、ロング利用者３名（在宅復帰１名・他事業所移行２名）の生活再建が実現し、介護保険の理念である自立支援を体現した。
今後は、入退所調整の強化と科学的介護の継続的実践により、稼働率向上と質の高い支援を両立していく。

事業所計画においての報告と反省
収益目標（９５％以上）、リピート率１００％以上
９０．２％（目標未達）

単発利用者の獲得は容易であり、リピート率も１００％と高水準であった。

一方で、ロング利用者は特養入居待機者を中心に受け入れているため、入居希望者の意向や入居時期との調整が難しく、利用タイミングが合わないケースが発生した。

また医療機関からの受け入れにおいても、体調変化や退院時期のずれにより、予定通りの利用につながらない事例が見られた。

科学的介護目標

（１）ロング利用者の ADL 変化の可視化
入所時および特養入居時に動画を撮影し、ADL の変化を継続的に記録・比較した。

成果として、動画による継続的な変化が明確に把握でき、利用者の身体機能の維持・改善状況を客観的に確認できた。

また特養入居時には、動画を活用した情報共有により、職員間での引き継ぎが円滑に行われた。

（２）「今年やりたいこと応援活動」の実現（目標 20 名）

実績２２名達成。
実施場所：稲佐山、じげもん、スタジアムシティ、はま寿司、リンガーハット等。

参加者はそれぞれの目標に向けて主体的に取り組み、車の乗降、歩行、店舗内での座位保持、食事注文や支払いなど、実生活動作の再獲得につながった。

地域資源との連携を拡大し、より多様な「やりたいこと」実現の機会を提供していく。

短期入所生活介護事業所

休止中

通所介護事業所　のぞみの杜　ふれ愛

総　括

今年度は、3ユニットそれぞれの特性を活かしながら、ユニット単位で完結するのではなく、事業所全体で課題を共有し、連携して取り組む体制づくりを進めた。

事業所会議内では、グループワーク形式による意見交換やロールプレイ形式の研修を実施し、スタッフ1人1人が主体的に発言し、考える機会を設けた。また、担当するスタッフが中心となって取り組みを進めることで、責任感や主体性の向上に繋がり、個々の成長だけでなく、チーム全体の連携強化にも繋げることができた。

ケアの面では、各ユニットの特色を活かしたケアに加え、科学的介護の視点を取り入れたケアを実践した。その結果、要介護から要支援への改善やふれ愛から元気の湧への併用利用開始に至ったケースもみられ、ご利用者のＡＤＬの維持・向上、ＱＯＬ向上に繋がった成果が得られた。

事業所計画においての報告と反省

Ⅰ【収益目標】　①稼働率85%以上　②新規獲得者数60名以上

①稼働率平均84%　②新規利用者数45名

稼働率に関しては、入院者数増加の影響もあり、目標には届かなかった。しかし、日常のケアの中で利用者の体調変化を早期に把握し、必要に応じて受診や対応に繋げてきたことにより、入院や長期欠席を防ぐことができ、前年度と比較すると大きな減少は見られず、維持することはできた。

新規利用者に関しては、目標を達成できなかった。今後、事業所の特色や取り組み内容を外部へ発信し、新規利用者獲得に繋げていく必要がある。

既存利用者に関しても満足度の向上やニーズに応じたケアの提供を継続して取り組む必要がある。

Ⅱ【科学的介護目標】

今年度は、科学的介護を改めて学び直し、日常のケアの中で根拠に基づいたケアを実践出来ることを目的として、マイスターが中心となり、事業所会議内で項目ごとの研修を実施した。また、事例対象者3名の家族会を実施し、ご家族と協力しながら取り組んだ内容や成果を共有する機会を設けた。実際にふれ愛で行っているケアを伝えることができ、自宅では見れないご利用者の様子を知って頂く機会になり、ご家族から喜びの声を頂けた。ご家族との連携の強化にも繋がり、スタッフのケアに対する意欲向上にも繋がった。

地域への発信として、科学的介護フォーラム、ＣＭ研修会へ参加し、ふれ愛での取り組みや成果を外部に発信することが出来た。事業所内で留まらず、地域へ向けて実践したケアを発信出来たことは、大きな成果であった。

元　気　の　湧

総　括

今年度元気の湧では、役職者の変動がある中で、予防の方々の 14 時帰りや新しいプログラム開始（WAN かいご）を行っている。スタッフ１人１人が、体力測定の内容追加や体験時のＣＭへの情報発信の改善、元気の湧の綺麗な環境を保つこと、接遇面などそれぞれができることを考え取り組みを行っている。通所介護計画書評価を担当ケアスタッフが実施することも開始。評価を通して、担当ご利用者と話をする機会をもち、ご自宅の様子や健康状態やその他の情報を聞き取ることができ、ケアに取り組むことができている。ご利用者からは、「話を聞いてくれて嬉しい」「話すだけでも不安解消、気分転換になる」とのお声を頂いている。機能訓練では、個別目標を設定し実際の自宅屋外動線での歩行訓練を発信し家族への同意を得ながら実践。歩行速度、段差昇降、方向転換など周囲確認の様子を観察しながら安全に移動ができるか評価。新たな取り組みとして、ご利用者の意欲向上にも繋がりご家族共にも喜んで頂いてる。事業所の特色として、元気の湧の内容が、ご利用者の口コミで広がっていくことも見られる。外部への発信を行いながら、元気の湧の内容を日々改善の視点を持ちながら、より良いサービス提供に努め、ご利用者の楽しみや在宅生活にいかして頂けるように取り組んでいく必要がある。

事業所計画においての報告と反省

１．収益目標

① 新規利用者４５名以上
② 稼働率８５％以上
③ ２カ月に１回　地域開放日

新規利用者の目標は達成､稼働率は達成できなかった｡令和８年２月～3 月にかけて稼働率は徐々に新規も増え続け 83%と上昇している｡令和６年度末 77%から今年度は開始し稼働率が 80%を超えない期間が続いたが、上昇傾向にあるため、来年度稼働率上昇に向け、サービス内容の検証と取り組みの発信を実施していく。

・体験、見学のご利用者に対して体操を分かりやすく説明を行い、理解興味をもって頂くように努めた。体験の場合は、実際に参加をしてもらうことで実感をしっかり得て頂くようにしている。体験は事前情報も少ないため、今後は体験も満足度上昇のため、事前に情報収集の方法の改善を検討していきたいと考えている。

・11 月～体験利用の様子を CM に連絡を実施。体験の感想をお伝えすることで CM との連携、顔つなぎができ信頼も強くなっている。共有しアセスメントの情報として活用頂くこともできている元気の湧を知らない CM にも事前に説明を行えていることで、事業所をより知って頂く機会となっている

・元気の湧の取り組み内容について外部に伝える取り組みが必要。のぞみの杜に２つのデイ、ふれ愛との違い、２つのデイが繋がっていること、幅広い支援が可能であることを合わせて伝えていくことで、状態に合わせて継続した支援が可能であることを周知する。またプログラムや設備、環境など、提供するサービスの魅力を発信する。インスタグラムの反応もあり、SNS と合わせて発信を行うことで、様々な世代の方々に知って頂けるように働きかけていく。

・入院、退院などによるご利用者の変動、稼働率への影響など分析が必要。

・地域開放日は、2 カ月に 1 回開催を行えており、継続してご参加頂けている方も多い。令和８年は月１回の開催とするため地域への周知を行い、参加者やリピーターが増えているに働き方をしていく。（役場、社協など地域の機関）

２．科学的介護目標

①新プログラム３つの追加を行い、魅力のある事業所となる

②科学的介護、普及動画を再生することで、体操中などご利用者、スタッフ共に学ぶ機会を設け理解を図る

・6 月～予防利用者の 14 時帰り。開始当初は混乱や様々なご意見を頂くこともあったが、現在は特になく浸透している。午後からの元々のプログラムは時間をずらし、圧縮することで満足度を下げないよう実施できている。14 時になったことによるご利用者の在宅生活での役割を行う時間の確保。元気の湧の送迎が分散されることで、事務処理やふれ愛へのシーツ交換のフォローなど、別に時間を活用できている。

・14 時帰りにしたことで、延べ人数の計算に変更があり、R8 から通常規模での営業となる。単位数が上がるためＲ８は収益アップが見込める。

・WAN - かいご。脳若に代わり、新しいプログラムとして新鮮でマンネリ解消に繋がっている。ご利用者からも喜びの声多数頂き楽しんで頂いている。動画の種類も豊富で水分摂取の重要性、食事、疾患などクイズ仕立てとなっていたりと、楽しみながら知って頂く機会となっている。科学的介護の観点からも、メニューによってご利用者への情報発信の１つとなっている

・普及動画は実施できていない。直接の説明や掲示、WAN - かいごでの水分動画などレクに取り入れての発信方法に代替して実施している。科学的介護は事業所全体で学びを深め、ご利用者に説明を促していける体制としていく必要がある。

居宅介護支援事業所

総　括

・相談件数 90 件（新規担当依頼は 84 件）。実際に居宅実績に繋がった件数は 59 件。
・前年度に比べて新規件数は増加（51→59）しているが、前年度に比べて終了者は 10 件多く総件数は増加していない。終了の理由は施設入所、死去が 9 割を占めている。
・前年度は新規依頼に対して、早急な受入ができない時期があり、日数を置いて対応を行うことも見られていたが、今年度は人員の確保や居宅内でのスタッフの件数調整を行いながら早急な対応が実施できている。管理者だけでなく、今年度は新規相談の担当振り分けを行えるスタッフがいることで、早急な対応が可能となった。
・居宅会議議事録にて、各 CM の実績数と新規数（毎週）を表示。管理職のみで把握していた全体の詳細を見える化することで、スタッフ同士で業務の動きが捉えやすくなり、協力体制が向上している。今後も相談は早急な対応を行うことで、地域住民や関係機関の信頼を高め、相談件数の上昇に努めていきたい。のぞみの杜居宅として実績数を増やすことは重視しながら、地域の相談窓口として、実績の有無だけでなく、ケアマネジャーとして地域に貢献することも重視している。
・リモートワーク（在宅ワーク、外勤時）は日常使いとなり、時間の有効活用、事務作業の生産性向上へと繋がっており、残業時間が昨年から減少傾向にある。気づきは週 1 回の会議にて検討を行う機会を設けており随時検証行えている。法人から準備頂いている設備を十分に活用できるように、使用方法、ルール作り、スタッフの気づきは共有し最善の方法を検証していく。

事業所計画においての報告と反省

１．収益目標
・相談件数１００件以上。
・新規件数　５５件以上

収益では、新規件数は 59 件と達成。新規依頼は 84 件。実績との差は要支援から要介護への区分変更時の依頼件数が多くを占めている。相談件数は 90 件と目標達成には至らなかったが、内訳として新規依頼に繋がる相談は多く、新規実績件数達成に影響はなかった。今年度職員の退職入職と続き、担当変更と引き継ぎをスタッフで協力し分担。前担当者に振り分けるなど対応しご利用者の負担軽減にも努めることができている。変更した人員体制となった際も、変わらず相談や新規受付は遅れなく早急に対応を実施できており、特に地域包括支援センターからの相談は多く、41 件と相談総数のほぼ半数を占めている。早急な対応と区分変更の連携も全て受付けできていることで信頼を得ていると評価できる。次いで地域住民からの相談が 30 件となっている。今年度は個人での収益行動を設定し、各自行動を実施している。

顧客満足度

・アンケート回収率　74%　回収率は前年比3%増。

・項目の丁寧な挨拶、ケアプラン説明、連携、訪問時間など9割以上ご満足頂けている結果。だいたい満足が1割程度。普通もわずか数件、やや不満のご意見はなかった。

・今回のアンケートは満足度に加えて、緊急連絡先についてご認識を頂けているかを確認した。担当CMの携帯電話に通常連絡を頂けているが、休みや連絡が取れない状況の場合に、居宅事務所に連絡を頂く手順の浸透ができているか、別のCMの協力体制があることをご理解頂けているか。周知できていなければ、今後早急な対応ができないことへのリスク把握に努めた。結果として、のぞみの杜の電話番号は9割周知できているが、夜間や週末の電話番号は6割程度に留まった。のぞみの杜連絡先の周知については、今回課題として上がっているため、モニタリングの時などで再度連絡先について周知を行う必要がある。携帯電話だけの認識だと、担当ＣＭの負担も大きくなるため事業所全体でフォローできる体制とする。

２．「適切なケアマネジメント手法」項目を活用したケアプラン策定率100%

適切なケアマネジメント手法の中から、抜粋した基本ケア5項目のアセスメント表を活用しケアプランの質の向上（食事、水分、口腔、活動、排泄）

・アセスメントの深堀りに活用でき、適切なケアマネジメントの手法という根拠の中で、ご利用者を知ることができるように取り組めている。必要な情報収集や、ご利用者にも根拠の説明を行いながら、必要性を提案できることで質の向上に繋がっている

・アセスメントでの深堀りができることで、ケアプランの目標設定や支援内容への落とし込みに繋がっている（具体的な水分設定や活動など）

・必要な支援内容をお伝えすることで、水分に気がけてもらうことができ、量を測ってくれたりとご家族の関わりに変化も見られたケースもある。

・排便が改善し減薬に繋がるケースも見られた。

・サービス担当者会議では、アセスメントの課題分析からの目標設定、支援内容の説明を行い共有できている。共有することでその後の連携に繋がり、その中で水分量や排便、活動参加など他事業所や施設から情報提供頂けるようになったケースも見られた。

・5項目の支援内容を実際に実施するには、ご本人と介護者であるご家族の理解が必要。必要性の根拠をもって説明を行っていく必要がある。始めから理解を頂けると焦らず、ご本人やご家族のこれまでの生活習慣やペースに寄り添いながら、日々モニタリングを重ね少しでも変化を求めていく。個々により、優先するもの、理由があり、基本ケアは重要であるが個別性も理解しながら、アセスメントやプランニングに取り組む視点は重要である。

認知症対応型共同生活介

総　括

令和７年度は、ICT(見守りカメラ・ハナストなど)の導入により、業務効率化に向けて大きく動き出した一年となった。「見守りカメラ」においては、使用開始までの準備不足により、事業所としても不安を抱えたままのスタートとなってしまい、その結果Ａランク事故の発生につながってしまったことは大きな反省点である。
しかし、そのような中でも一つひとつの事故の要因を真摯に受け止め、スタッフ全員で試行錯誤しながら対策を講じ、少しずつ前進することが出来た。事故からの学びを一人ひとりの成長へ繋げることが出来た１年であったと考える。
職員それぞれの特性や強みを生かし、役割分担を行い、科学的介護の推進に取り組んだ。
グループホームの特性も生かしながら、入居者お一人お一人の「ＢＰＳＤ軽減・消失」に向けた支援を行うことが出来た。
来年度は、今年度届かなかった「稼働率９８％達成」を目標に、「Ａランク事故ゼロ」「活動・水分摂取プログラムの定着」に向けて取り組み、入居者が安心して、穏やかに生活できる環境作りをさらに推進していく。

事業所目標においての報告と反省

【収益目標】

1. 稼働率９８％
2. 住み替えや、長期入院の際は、次の入居者を速やかに決定し、医療や他事業所との連携を図り２週間以内に入居していただく
3. ICTの活用により業務効率化を図り、離職者０を目指す

稼働率95.2%と目標達成には至らなかった。今年度Ａランク事故の発生が３件。それに伴い入院や、住み替え等での稼働の変動が大きくあった事が要因。退院後の生活については特養・もみじと連携し、ご家族の希望をお聞きした上で、安心して住み替えを行っていただくことが出来た。今年度の入居者は４名、退居から入居までの平均日数は15.3日であり、２週間(14日以内)での入居を達成するためには、GHでの生活を継続するための基準を打ち出しご家族様と共有していく必要がある。

「見守りカメラ」の導入により、事故発生時の検証や要因分析、対策までの流れがスムーズになり業務効率は格段に向上している。また今まで判らなかった部分も明確になる事での安心感は大きい。プライバシー保護の観点はしっかりと持った上で、事故の予知予測の視点をもち有効活用していく必要がある。

【科学的介護目標】

1．4つの基本ケア(水分・栄養・排泄・活動)を実践し、入居者全員のBPSD症状の軽減・消失を目指す。

2．2か月に1度の運営推進会議内で科学的介護の成果を発表し、地域に発信する。

前年度から課題としていた「活動」に目を向け、ホワイトボードで目標を「見える化」したことでスタッフはもちろん入居者様自身の意識付けになり、自発的な「活動(歩行訓練)」が出来るようになっている。具体的な数字を記載したことで「達成感」・「意欲」の向上に繋がっている。
またこの取り組みについて2か月に一回の運営推進会議にて地域に発信し、事業所だけでなく、施設全体の科学的介護への取り組みへの理解も深まっている。

生活支援ハウス

総　括

令和7年度は、入居者が入れ替わることなく12名の方が生活することが出来た。認知症の進行により薬の管理が困難になってきた方が1名、自室での転倒が続き身体的に日常動作に不安を抱えている方が1名おられますが、介護保険サービスを利用することで補えており継続した支援ハウスでの生活を望んでおられる。また、自室で転倒し入院されたもう一人の方は、退院後は、お変わりなく自由な人生を満喫されており、長与町介護フェスでも紹介されるほどだった。各入居者自身のプライベート空間を確立しつつ、季節感のある催事や地域の方の訪問企画に参加して頂く事が出来た。次年度の課題は、入れ替わりがなかった1年だった為、待機者の状態や生活環境が変化している可能性もあり、実質的な待機者把握が必要と考える。

事業所目標においての報告と反省

【収益目標】

1．長与町福祉課との連携はスムーズだった。2名の方の見学があり、最終待機者は6名となった。

2．年間入居者　12名

【科学的介護目標】

1．科学的介護に関するポスターを掲示。(2カ月に1回内容の変更を行う)
　前期に2回、後期に2回掲示した。水分をとるタイミングや4つのケアによる体調の整え方を伝え入居者とコミュニケーションを図ることは出来た。

2．ケアマイスターによる入居者を交えた研修（常食化、水分摂取について）を行った。
　殆どの方が興味を示され、多くの質問をされていた。

スマイル・キッチン

1. 総括

本年度は育児休業中のスタッフの復帰および新卒職員の入職により、欠員状態が解消され、前年度より取り組んでいる「誕生日会」や「食事企画」を合わせて年間 11 回開催することができた。また施設全体で推進している科学的介護の一環として「水分ジュレ」や「ババロア」など、水分摂取量の向上および咀嚼力維持・栄養強化を目的とした新たな取り組みに挑戦した。水分ジュレは入居者さまから好評を得て、平均水分摂取量 100ml アップの目標を達成。調理スタッフも科学的介護への貢献を実感し、モチベーション向上につながった。

次年度は、調理技術および科学的介護の知識をさらに深め、「進化し続けるキッチン」として、科学的介護の実践を支えるバックアップ体制を強化していく。

2.事業所計画に基づく実績と反省

項目	目標	実績	概要・成果
① 誕生日会 行事食の開催	年 10 回	**11 回実施**	お祝い膳（家族参加型）4 回・23 名参加。行事食・食事企画 7 回実施。利用者・家族双方から好評を得られた。
② 来客への 食事販売・提供	50 食	**51 食提供** **見学 6 回**	ユニットケアの配膳方法や、セントラルとサテライト同所化システムの見学希望が多い。クックチル導入施設との意見交換ができ、今後も交流を通じ業務効率化・スキルアップを目指す。

3. 科学的介護への取り組み

（1）常食化の推進（咀嚼・嚥下機能の維持と食の楽しみの両立）

- 一部常食から段階的に取り組み、常食率は主食 58→60%（2%増）、副食 52→52%（前年同じ）、平均摂取カロリーは食材やメニューを見直し 168kcal アップした。
- 摂食嚥下訓練食として「ババロア・果物ジュース・あんこ」を用いたゼリー5 種を試作、そのうち固さの違う 2 種のババロアを採用し、毎日提供している。

（2）水分ケア（目標 100ml アップ）科学的介護の視点から、摂取量の可視化とモニタリング実施

- R7.4：平均 1324ml → R8.2：1445ml（＋121ml）と目標達成できた。
- 果物ジュース・炭酸水・豆乳など 6 種の水分を水分ケアに追加した。
- 「食べる水分」として水分ジュレ 7 種を試作・ローテーション毎日提供している。

もりのほいくえん

総括

本年度は大きな取り組みとして、一般型一時預かり事業の実施を開始することができた。保育内容としては、どのクラスも全体的に月齢が低く、それに応じた丁寧な関わりや環境調整が求められた一年であった。大きな怪我や重大事故はなく一年を終えることができたものの、年度が進むにつれ軽度の事故が散見されたため、次年度は未然防止に向けた環境整備と職員間の共有強化に取り組んでいきたい。

収益目標の達成状況

- 平均園児在籍数：目標を達成
- 一般型預かり事業所加算：取得し、目標を達成

いずれも計画通りの成果を得ることができた。次年度も引き続き、安定した運営と収益確保に努める。

科学的介護（エビデンスに基づく支援）に関する取り組み

本年度は、施設ご利用者・ご入居者への制作物依頼や、ひまわり広場での模倣遊びなど、計画していた活動を予定通り実施することができた。 これらの取り組みはご利用者からも好評であり、保育園スタッフのモチベーション向上にも寄与した。次年度も継続して企画し、地域・施設との連携を深めていきたい。